



最近愛用の革のパンツスーツ。これもハーフムーン(☎03・3463・3952)のもの。

大きめのジャケットは、ショートコート風に。 男物のストロールでりりしく決めるのがコツ。



パリで買ったガレージのブラウス。

てくるでしょ。腰まわりに合わせる、丈がうんと長くなる。かといって、その分短くするとなんかヘンだし……」
そんな悩みに応えてくれたのが、「ハ

めだし、腰まわりもびったりフィットします。
「なによりオーソドックスなのが嬉しいですね。品良く知的な雰囲気にも着られるし、組合せによってはスポーティーカジュアルにもなるの」
サイズの問題のみならず、高野さんの遊び心を大いに刺激してくれます。
たとえば、革のパンツスーツ(写真左上)。ジョッパーズ・パンツの丈を10cm程縮めたけれど、ちっとも変じやない。大きめの上着はショートコートと決めこんで、男物のストロールを無造作にあしらひ、風爽と着こなしてしま

「何でも自分流に遊んでみたい性質なんです。でも、遊べない服ってやつぱりつまんないと思いませんか？」
確かに、欠点を隠すために不本意な服を着るのは楽しくありません。小柄ならば、それを長所に変えてしまおうというのが高野さんの持論です。
「派手なものや突飛なものなら、小柄なほうが得じゃないかしら。大柄な人が全身豹柄だったりすると、ギョッと



ます。
するもの。小さいとそんなに嫌みにならないでしょ」

ピーマン帽やパイナップルみたいな帽子だって、えいやつとばかりにかぶってしまおう。この取材のために、いろいろ取り出してみると、なんと豹柄のもので、トランクいっぱいになってしまったとか。ともかくユニークなものが大好き、なのです。

「タクシーに乗っていて、ちょっと面白そうなのが目にとまると、タクシーを止めて買いに走っちゃう。自分でもよく見えるなあっていうかんじ」

ただし、たまに遊び心のほうが勝ちすぎて失敗することも。



「好きなものと似合うものって、全く違うこともあるので、自重しなくては、と、自分に言い聞かせてつつ、結局、買ってしまおうのよねえ」
少し前まではオリーブファッションやジャンクっぽいアクセサリを買っていたけれど、
「そろそろ本物に変えようと思うの。そういう意味でも『ハーフムーン』は重宝しています」

これもガレージ。縫製がしっかりしている。

2月末に公開になる映画『バンカー・パレス・ホテル』の宣伝に大忙しの日々です。